



優勝の山川桂さんを中央に、2位の三木見知男さん(左)と3位のベテラン梅木昭雄さん



全日本チヌ釣り連盟主催「サンテレビ杯チヌ釣り大会」
豆フグのエサ瞬殺に粘り勝ち

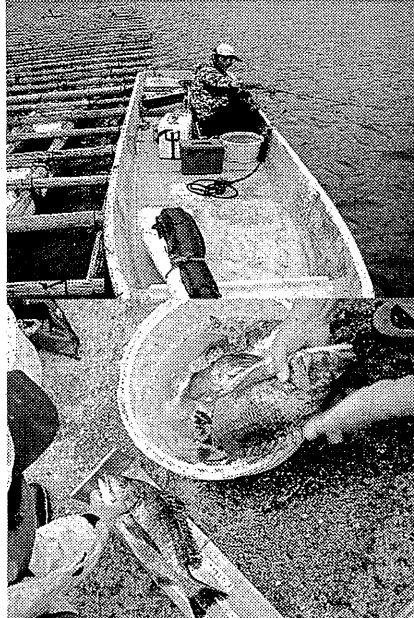
三重・三ヶ所
本紙指定店 永田渡船
三重県三ヶ所にある本紙指定店「永田渡船」

山川さん10年ぶり3度目

渡船(永田賢船長)の筏やカセを舞台に9月25日、チヌの2匹長寸を競った全日本チヌ釣り連盟主催「サンテレビ杯チヌ釣り大会」に行つてくれました。
9月6日に他界した南出正太郎会長の追悼大会となり、開会前の未明4

個人部のチヌ25匹以上の2匹長寸(82・0寸(44・5寸+37・5寸)山川桂(関西チヌ釣り研究会)他に37・0寸、32・7寸も②45・3寸(釣果1匹のみ)三木見知男(会チヌクラブB)③31・7寸(1匹のみ)梅木昭雄(阪神さわやか釣クラブB)
▼団体の部(チーム3人の25匹以上総長寸)①177・7寸(関西チヌ釣り研究会A(山川、秋山、山本)②45・3寸(全日本チヌ釣りクラブB(三木、前田秀、林)

山川さんが豆フグと戦った西ノ浦の奥のカセ



山川さんの釣果を検寸

時半ごろには39人の選手、役員らが黙とうをささげ、喪章を着けての出陣。
優勝したんは関西チヌ又研の山川桂さん(47) 京都府八幡市在住、電機工事会社経営で、82寸という断トツの釣果でした。
平成12、13年に欠いで10年ぶり、今大会3度目の栄冠だつて。うまいんだねえ。

この時季の秋チヌは20〜23寸の小チヌが圧倒的に多いんですが、タンゴに寄るフグの猛攻をかわしても、肝心の本命チヌはアタリが小さかったそう。竿先が止まったり、たまにジワッと曲がったりして居食いしている感じがすかね。サンエは硬めの食わせ沖アミをメインに、コーンと沖アミ

の抱き合わせや、コーン3粒刺しとか、いろいろ試したつて。ほんでエサの瞬殺に勝つたわけつす。20寸以上のチヌは30匹は釣つてますたけれど、大会では25寸以上が対象。30寸オーバーのが4匹おつたわ。一番大きいのは44・5寸ね。アケミ丸貝の落とし込みで良型を仕留めてました。

「忙しい釣り。何百回も仕掛けを投入したから、もう右手がけんしょう炎みたい。フグにエサをとられるわ、ハリスを切りられるわ。最後は丸貝しか残つてませんでした」
苦笑いを浮かべながらも、うれしそう。仕事の関係とやらで、フグがあまりに釣れど、3年前にチヌ釣り復活。仲間たちは粘っこい人」と口をそろえまふ。まさに粘り勝ちでしたね。
タックルは竿1・5尺、道糸1・75号通し。がまかつのチヌ針2号。

永田渡船では、依然としてチヌの釣りが続いております。ぜひ一度、おいでませう。事務所にいる生まれたばかりのニャンコもかわゆいよ。
(芳賀 正)
★問合せ 三重三ヶ所の本紙指定店「永田渡船」(059・57・2754)